

平成24年度 第2回 博物館協議会 7月27日

(司会：文化財課長)

(市民憲章唱和)

1 あいさつ

(会長)

本日は資料にありますように、平成24年度下半期事業計画と平成25年度展示計画について説明並びに審議をよろしくお願いいたします。

2 協議事項

(取り回し：会長)

(1) 平成24年度下半期事業計画（案）について

(資料説明：事務局)

(委員)

鹿乗川流域遺跡群シンポジウムについての具体的な案はまだ出ていないのか。

(事務局)

まだ具体的な内容までは詰めていない。

(委員)

この地域独特の題名でまだ全国的にも浸透していないので、題名を見ただけでは内容がわかりにくい。また、時代もこれだけだとわかりにくい。例えば、「弥生時代シンポジウム」とか、副題に「鹿乗川流域遺跡群を中心にして」など、もう少し内容や時代がわかるようにしておく、地元あるいは県内や県外の方たちも参加しやすいと思う。

(事務局)

具体的な内容も含めて、題名についても今後調整していきたい。

(委員)

「弥生時代シンポジウム」はどうか。安城の弥生時代に関することなので、人は集まると思うが。

(事務局)

それだと逆に大きすぎる。松平シンポジウムのようにシリーズでやっていくのなら、副題をつけることも一つの方法かと思う。

(委員)

「鹿乗川流域遺跡群」という単独名ではやはりわかりにくい。説明しないとわからない。

(委員)

時間が午前10時から午後4時の6時間ある。6時間のシンポジウムとはどんな形なのか。

(事務局)

いろいろなやり方があるが、一般的なのは小さいテーマで話すひとが5、6人いて、その方たちに順番に何分か話して、その後それを総合した話し合いをするということ。これらを午前と午後に割り振るということになるのか、まだ中身は詰めてない。

(事務局)

今後パネラーなど話を詰めるので、現在は日程と場所が決まっている程度。県埋文センターと内容を調整していく段階にある。

(会長)

松平シンポジウムは副題がつくのか。

(事務局)

配付資料では書いていないが、過去2回のように今回も副題はつける。第3回は桶狭間の合戦後なので、それに関係する副題がつく。

(委員)

松平シンポジウムについて、チラシはまだできていないのか。

(事務局)

チラシはまだです。

(この後、下半期の展示内容(「変わる安城・60年の軌跡」「桜井町下谷の棒の手・馬の塔」「震災からよみがえった東北の文化財」)について各担当者より説明)

(委員)

「変わる安城」展について、写真のパネルが中心の展示になるのか。物は出ないのか。

(事務局)

主は写真展。全く物が出ないわけではないが、現段階ではまだ具体的には提示できない。

(委員)

安城ではいろいろな記念式典があったが、そのときの案内状や記念品などがあれば展示できるのではないかな。そのデザインを見ても時代の移り変わりがわかると思う。そういった資料を持っている方もいるかなと思う。

(会長)

その方に聞いてみるとよい。他に資料を持っていそうな方はいるか。

(委員)

駅前周辺のお年寄りに聞くと、昔のことをいろいろ語ってくれると思う。区画整理によって変わっていく分、特別な想いも持っているかなと思う。安城市の移り変わりだけではなく、そういう想いのようなものをコラムのような形で紹介できるとよい。

(副会長)

来年七夕まつりが60回目ということで、七夕まつりのこともこの展示の中で紹介してほしい。

(委員)

航空写真は展示する予定か。順を追って展示すれば、市域の景観の変遷が分かりやすいと思う。

(会長)

「棒の手」について、どういうものを展示するのか。メインとなるものはなにか。

(事務局)

棒の手に使う道具や衣装、年表や動きのわかるパネルなどを展示する予定。

(委員)

棒の手・馬の塔だけではなく、桜井神社のことも含めて展示するとよいかなと思う。

(事務局)

今後検討してみる。

(委員)

「桜井町の」ではなく「安城市の」という題名のほうが適しているのではないか。広い範囲で紹介したらどうか。

(事務局)

現在は桜井町だけなので、「桜井町の」にした。

(副会長)

からくり展のように実演は何回かやるのか。また、動画で残したりするのか

(事務局)

実演は1回、可能であれば2回予定している。映像は展示室で常時流す。技を記録した映像は文献資料室に収める予定。

(会長)

映像は大きなスクリーンを使うのか、テレビ画面で見せるのか。

(事務局)

家庭用サイズのテレビ画面で流す予定。

(会長)

「東北の文化財」展について。主催となる実行委員会は安城市の委員会か。

(事務局)

東北地方の人と文化庁の人が集まってできている任意の委員会。

(委員)

安城関係のものも展示されるということについて。震災に関わったものが展示されるということか。それとも文化財の修復という観点で展示するのか、

(事務局)

修復や発見という観点。例えば、汚れていた資料がきれいになったということや、なんともないと思っていたものが、非常に貴重なものだったというような内容。

(会長)

「震災」「東北」という言葉が入っているので、安城の文化財を無理にいれなくてもよいのでは。三河地震で文化財を救ったなどの例があれば別だが。

(事務局)

本證寺の建造物がそれに近いかもしれません。

(会長)

「修復しました」「きれいにしました」では、意味が薄いかと思う。そういうものはまた別の機会に紹介すればいいのでは。

(事務局)

そのあたりも含め、検討いたします。

(2) 平成25年度展示計画(案)について

(資料説明：事務局)

(会長)

ミュージアムスポットという名称をなくすことには賛成。しかし、特別展と企画展の2つの名称ではどちらがどっちなのかわかりにくい。

(事務局)

いままでミュージアム・スポットでやっていたのを企画展(無料)に、企画展・特別展でやっていたのを特別展(有料)に変更したい。

(事務局)

「新美南吉展」「三河一向一揆展」「鹿乗川流域遺跡群」は特別展に、それ以外は企画展になる予定。

(事務局)

どのくらいの規模と費用でやるのかによって、有料のものが無料になる可能性もあるが、今のところ無料が企画展で、有料が特別展ということになる。

(会長)

企画展と特別展の仕分けをもっと分かりやすくしたらどうか。

(事務局)

企画展と特別展のすみ分けは今後整理していきたい。

(会長)

展覧会を6回から5回に減らすのはやめてほしい。外部企画を毎年一回取り入れて、6回から減らさないようにしてほしい。

(事務局)

まだ、案の段階なので今後検討する。

(会長)

なにも来年度から実施しなくてもよいのでは。考え考えやっていけばよいのでは。

(事務局)

予算取りをする中で、来年度は今年度の予算要求になっていくので、方向付けはこういう考え方でやっていきたい。

(委員)

外部企画を頼む場合と、自分たちの博物館でやっていく場合の金額に開きはあるか。

(事務局)

外部の方が平均的に高い。

(委員)

新美南吉展について、半田市の開催とあわせて行うとなると向こうで展示されているものをこちらでも展示することはないということでもいいか。

(事務局)

このときの半田市の展覧会は、あまり新美南吉とは直接関係ないもので、南吉の作品を通して主に知多半島を紹介する展覧会を考えているようである。南吉の生涯を追うような展示は南吉記念館には十分なスペースがなく難しい。そのような展示は来年、巡回展で行う予定。

半田市との同時開催でも問題はないと考えている。

(委員)

広告展について、広告とは具体的にどのようなものを展示するのか。時代とかは。

(事務局)

まだそこまで絞り込んではいないが、紙のことが多い。江戸時代の引札や昭和のチラシなどがあるがなにを展示するかは決まっていない。

(委員)

25年度の展示とは直接関係ないが、日本デンマークのことで気になっていることがある。新美南吉がこれだけ盛り上がっているのに、日本デンマークで一生懸命頑張った板倉源太郎が無視されているような状況になっている。なにか板倉源太郎や板倉農場、日本デンマークなどの企画展はできないか。

(事務局)

人にスポットを当ててやる展覧会という意味なのか、日本デンマークを作った人々にスポットを当てたものなのか。

(委員)

日本デンマークが主で、その中で板倉源太郎の功績も評価してほしいという意味。来年ではなくて、どこかで機会があればお願いしたい。

(会長)

展覧会の回数減らすということは本当にいいのか。

(事務局)

今後検討していきたい。

3 その他